

これからの動物園について聞かせてください

——園長、京都市動物園の今後の方向性を教えてください。

園長 動物園の役割は時代とともに変化してきました。動物福祉や環境保全への意識が高まり、最近は、SDG's (持続可能な開発目標) の取り組みが世界的な気運です。

——いまの動物園は社会のなかでどんな役割を担う存在なのですか。

園長 動物・人・自然、すべての「いのち」が輝く場所であること。そしてそれを市民のみならずと共有できる、学びの場でありたいと思います。いま進めている「新たな『京都市動物園構想』」は、そうした将来ビジョンをみすえて検討しています。

——平成27年のリニューアルオープンから3年が経ちました。

園長 7年かけて、それぞれの動物の「らしさ」を、より身近に楽しめる動物園に生まれ変わりました。ゾウはゾウらしく、ゴリラはゴリラらしく。たとえばニシゴリラはもともとアフリカの熱帯雨林などで暮らしています。新しい「ゴリラのおうち」は、少しでも野生下の環境に近づけようと樹木を植えています。ニシゴリラは食べ物や遊び道具として樹木を利用するので、折られたり抜かれたりすることも。植えては抜かれ、抜けては抜かれ……その繰り返しです。その植栽も市民と一緒にワークショップ型でやっています。

京都市動物園 第31代目 園長

かたやま ひろあき
片山 博昭

花みどりを紹介するパンフレットを発行するなど、主役の動物だけでなく、植物の「生態展示」にも力を入れる。西京極総合運動公園や宝ヶ池公園の計画・設計、京都市緑の基本計画策定などを担当。



定例イベント『園長とお散歩』では、動物の話、植物の話と話がはずむ

——大変ですね。

園長 まあそれが自然な営みですから(笑)。起こる出来事を冷静に受け止め、全てを学びの機会にしていければと思います。また、ここ岡崎は、東山と琵琶湖疏水、ゆたかな水と緑に恵まれ、国の重要文化的景観にも選定されています。岡崎らしさ、京都らしさのある園内環境をと、京都の四季を感じる植物も取り入れました。

——研究、教育にも、さらに力を入れているようですが。

園長 平成20年に京都大学との連携協定を結び、平成25年に学術研究・環境教育の拠点として、「生き物・学び・研究センター」を設置しました。動物園内の学術研究・環境教育機関は日本で唯一の取り組みです。科研費申請資格ももち、大学や研究機関の研究者との共同研究をしています。小・中・高・大学向け教育プログラムもたくさん実施しています。園内の日々の園内ガイドや動物解説のほか、年間200回を超える講演会を開催しています。

——ウェブを含め、情報発信で大切にしていることは？

園長 動物園では、楽しいニュースはもちろんですが、難しい問題や悲しいお知らせもあります。それも正直に伝えていこうという姿勢が日々受け継がれています。動物の生き死にに日々向き合うなかで、誕生を喜び、死を悼む。それが動物園の営みの日常です。だからこそ感じるのです、いのちのかがやきと尊厳のかけがえのなさを。

——「いのちをつなぎ、いのちが輝く動物園」という構想のタイトルは、そういうところから生まれたのですか。

園長 動物も人間もその他の生きものも、すべての「いのち」がかけがえのないものです。市民の皆さんと一緒に、多くの人が集まり、多くの学びを提供できる動物園をめざして、使命を果たしていきたいです。

京都市動物園では、 新たな構想の策定を目指しています

京都市動物園理念(案)

動物園の役割は時代とともに変化してきました。地球規模での環境破壊が進むなか、いま、現代における新たな動物園像が求められています。人間もまた地球に生きる動物の一員であることを踏まえ、京都市動物園は、ヒトを含む全ての動物のいのちと暮らしに敬意を持って向き合い、市民の皆様とともに動物園文化の成長と発展に寄与することを目指します。

行動指針(案)

- ①京都市動物園は、絶滅の恐れのある動物種の繁殖に取り組み、希少種のいのちをつなぎ、種の保存に寄与します。
- ②京都市動物園は、動物の福祉に配慮し、いのちを輝かせる飼育・展示を行います。
- ③京都市動物園は、野生動物の行動や生態、動物福祉などの研究を推進し、生物多様性の保全に寄与します。
- ④京都市動物園は、種の保存の取組や研究の成果をいかし、幅広い年齢層を対象に環境教育を実践し、楽しい学びの場を提供します。
- ⑤京都市動物園は、安全で安心な動物園であり続けます。
- ⑥京都市動物園は、様々な市民・団体との共汗により、人と動物に係る文化を発信します。

5つの柱と27の施策(案)

- | | | |
|---|-----------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 | 生物多様性の保全に力強く貢献し
日本をリードする動物園 | 施策1 持続可能な飼育展示・繁殖の推進
施策2 国際的な希少種の域外保全の推進
施策3 国内希少種の域外・域内保全の推進 |
| 2 | 野生動物の行動や生態、福祉を
研究する世界水準の動物園 | 施策4 希少種の保全や動物福祉の研究の推進
施策5 動物の子育て、競合、協調から人間・社会を学ぶ研究(人間教育)の推進
施策6 遺伝子解析を駆使した繁殖・保全の推進
施策7 学術機関との連携による研究・教育普及活動の推進
施策8 動物福祉の研究の飼育環境・教育普及事業への活用 |
| 3 | 文化教育施設として日本国内の
オンリーワンを目指す動物園 | 施策9 動物園における環境教育の充実
施策10 「きょうと☆いのちかがやく博物館」事業(4園館連携)の推進
施策11 京都府立植物園との政策と事業の融合・連携の推進
施策12 国内外の実習生の受入れによる教育の場の形成
施策13 京都市立芸術大学との連携など、文化を発信する場としての機能向上
施策14 世界に向けた研究成果や動物園の取組の発信
施策15 学校教育の素材としての動物園の活用の推進 |
| 4 | 多くの人が集い、
多くの学びを広げる動物園 | 施策16 岡崎地域活性化のための連携
施策17 外国人観光客の誘致(多言語化等)
施策18 「環境都市・京都」の発信による教育旅行の誘致
施策19 効果的な広報活動の展開 |
| 5 | 「近くて楽しい動物園」
の更なる発展 | 施策20 展示の充実及び「エコ・Zoo」の推進
施策21 ユニバーサルデザインの推進
施策22 顧客満足度(CS)の高いサービスの提供
施策23 市民ボランティアとの協働
施策24 共汗に基づく市民及び企業の参加促進
施策25 ハード整備の推進
施策26 動物舎の計画的な維持・管理充実
施策27 運営体制の充実及び更なる安全対策の実施 |